

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成29年3月17日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅰ》</p> <p>【天理市立北中学校夜間学級】</p> <p>学習指導に関すること</p> <p>「生徒の相互理解を促し、関係性を深めるための教材開発」</p>
調査研究のねらい	<p>本学級には現在41名の成人の生徒が在籍している。生徒たちの社会的背景は多様で、民族、国籍、母語、文化、生い立ち、価値観、学習歴、年齢など多くの違いをもっている。そのため、学習のニーズや学習内容も多岐にわたり、個別の学習相談やカリキュラムの設定、個別学習や一斉学習など生徒の実態に合わせて、いろいろな工夫を凝らした教育活動を行っている。</p> <p>本学級では、「自分と社会とのつながりを深める」ことを教育活動の大きな目標の一つとしている、そのためには、まず自分の身の回りの人たちと違いを超えた関係を築くことが必要である。</p> <p>しかし、本学級の生徒には、価値観の違い、集団での学習経験の不足、学習経験のちがいなどから、学校生活において、お互いを十分理解し関係性を深めることが難しい場面も見られる。そのため、教員は夜間学級の社会的な存在意義や夜間学級の生徒の実態を十分に把握した上で、生徒同士の相互理解とつながりの深化に重点を置いた教育活動を効果的に実施することが求められる。</p> <p>そのため、今年度は次の点について研究を行う。</p> <p>A、多様な違いを持った生徒の相互理解を促し、つながりを深めるための教材作りとその活用</p> <p>B、夜間学級の社会的意義・生徒の実態把握・夜間学級特有の教育方法の理解に関わる職員研修</p>
調査研究の成果	<p>* 本年度の調査研究取り組み実施状況</p> <p>◎上記研究のねらいAについて</p> <p>5月25日(水)の職員会議にて、本年度の調査研究内容の一つである「多様な違いを持った生徒の相互理解を促し、つながりを深めるための教材作りとその活用」について、研究実施の具体的方法と手順を検討した。その結果、昨年の取り組みを継続し、異なる社会的背景を持った4名の生徒の生活作文を素材にして、生徒相互の関係を深めるための教材集を作成することとした。教材集の構成は、どの学習進度の生徒も理解可能なものにするために、教材集の日本語の表記については、それぞれの生徒の作文の原簿だけではなく、高齢で視力の落ちている生徒に配慮して、ワ</p>

ープロソフトでリライトした上で、学習進度に応じて、ふりがなのないものから、漢字表記にふりがなを付けたものまでを作成した。また、各クラスで教材集を活用しやすいように、それぞれの生徒の作文の内容や作文から読み取れる社会背景などについての設問を付けた。作成手順については、以下の手順で行うこととした。

- ① 社会的背景の異なる生徒4人の選出
- ② それぞれの生徒の作文の選出
- ③ 教材集の担当者と教材集の原稿集約及び印刷製本の担当者の選出

その後、教材作成の作業に入り、7月末に教材集を完成させた。9月7日（水）の職員会議にて、各クラスでの授業での教材集の活用方法を検討した。その結果以下の方法で活用を図ることとした。

- ① クラスで個々の生徒の学習進度に合わせた個別学習の読み取り教材としての使用
- ② クラスでの一斉授業中での活用を各クラスの生徒の実情に合わせて行う。
- ③ 作文を教材集に掲載した生徒本人に文化祭で作文発表をしてもらい、作文の内容について、他の生徒の感想を述べたり、質問をする機会を設ける。

その後、10月、11月に各クラスで教材集を使った教室活動を実施した。また、10月30日（日）の本校文化祭の集会部において、教材集に作文を掲載した生徒のうち在日韓国・朝鮮人1世の生徒に、文化祭参加者全員の前で、作文発表をしてもらい、その後、参加者から質問を受けたり、作文を聞いた感想を述べ合ったりすることで、生徒の相互理解を図った。

◎上記研究のねらいBについて

11月25日（金）に、上記研究のねらいBの特に「夜間学級の社会的意義」に関わって、「本学級の歴史や社会的役割、本学級を守り支えてきた関係者の努力」について、認識を深めるために講師を招へいし校内職員研修を実施した。

講師は、長年市民団体「天理の夜間中学をつくり育てる会」の事務局員を担当されている山本享史氏に依頼をし、夜間中学と義務教育不就学未修了の方たちへの教育保障活動へのご自身の想いを語っていただいた。山本氏は夜間中学がその教育活動を通じて、

社会的正義や平等といったものが、少しずつ具現化していくことの意義にもふれながら、本校の設立経緯や夜間中学運動について講義をされた。

また、上記研究のねらい B の特に「生徒の実態把握・夜間学級特有の教育方法の理解」のため、12月1日(木)～2日(金)にかけて実施された第62回全国夜間中学研究大会及び先進校視察(市川市立大洲中学校夜間学級・足立区立第四中学校夜間学級)に職員一名を派遣した。その後、12月20日(火)に校内職員研修にて、上記大会及び先進地視察を行った職員からの研修実施報告を受けた。

* 取り組みの成果と課題

①教材集の作成及び活用

作成担当者が個々の生徒の作文の背景となることを聞き取った上で、作文から想像できるその人の人となりや思いなどを考えるきっかけになる設問を設けたが、聞き取りをする課程で、作文を執筆した生徒の新たな生活実態や心情を発見することができ、職員の生徒理解が深まった。また、教材集の活用においては、個々のクラスの生徒の学力や作文を執筆した生徒との関係性に応じた教室活動、授業を実施したが、授業後、特に作文を執筆した生徒と普段関わりの少ない生徒からは、「どんな人かよく知らなかったが、自分と同じような苦勞をしてきた人であることがよく分かった。」「前は挨拶ぐらいしかしなかったけど、夕食の時間に話をするようになった」「人の作文をあまり読まなかったけど、こうやってみんなで読むとその人の事が分っていいと思う。」「自分の辛いことを作文に書くのは勇気のいること。自分もがんばって作文を書いてみようと思う。」など、作文を執筆した生徒とのコミュニケーションが深まったという趣旨の感想や教材集を活用した授業が、生徒の学習意欲の向上につながったということを示す感想をえることができた。

②職員研修

A: 全国夜間中学研究大会への参加、先進校への視察

特に今年度は、義務教育機会拡充についての法制化に伴い、今後の夜間中学の役割や課題について見識を深めることができた。また、大会参加、先進校視察を行った職員の報告会の中では、全国の流れも視野に入れながら、本校の既卒者(義務教

育の実質的な未修了者)の受け入れの展望や課題について、本校の現状に照らし合わせた具体的な論議を職員間ですることができた。

B:講師招へいによる校内職員研修

公立夜間中学では、学ぶ人を中心においた学校体制を維持していくことが重要であるが、そのためには、毎年入れ替わりのある職員体制の中、夜間中学の本質的な部分を新しい職員に引き継いでいかなければならない。今回の研修では、研修後の職員会議にて、研修に参加した職員から研修で何を学んだのかを個々発表してもらった時間を設けたが、「夜間中学が市民に支えられていることがよく分った」「夜間中学の職員は、夜間中学を支える運動を正しく理解した上で、仕事をしないといけないと感じた」「以前、『夜間中学は内側から壊れやすい学校である』ということを知っていたが、その意味がはっきりわかった」「この学校は、生徒さんたちに寄り添うという意味がはっきりわかった」「大事なことは、制度に生徒さんを合わせるのではなくて、制度を生徒さんのためにいかに使うかということだ」など、「人権」が設立のバックグラウンドにある本学級の使命の本質をとらえた意見が多く聞かれた。

③課題

今回の取り組みを通じて、夜間中学の取り組みで最も大事にしなければならない生徒理解と夜間中学自体の正しい理解を深めることができた。職員の転勤や退職等で入れ替わりが多い職員体制の現状を考え、来年度も引き続き同様の研究を実施していくことが必要である。